

大震災・復興ニュース(第144報)

平成26年2月20日
仙台地方振興事務所水産漁港部

1 宮城県内の水産物の放射能測定結果について

- 測定年月日 平成26年2月4日～平成26年2月18日
- 測定分析機関 (一財)宮城県公衆衛生協会,(公財)海洋生物環境研究所,(一財)九州環境管理協会,東北緑化環境保全(株),(株)総合水研究所,いであ(株),(一財)日本食品分析センター,(株)静環検査センター。
- 測定結果
宮城県内で平成26年1月29日から平成26年2月14日に採取したマガキ(養殖),ワカメ(養殖),ノリ(養殖)など水産物66検体について,放射能を測定した結果,すべての検査品目について,基準値を下回り,安全性に問題のないことが確認されました。

2 管内の復興に向けた動き

ヒガンフグの出荷制限が解除されました

- ・2月18日(火)原子力災害対策本部長(内閣総理大臣)から,原子力災害対策特別措置法(平成11年法律第156号)第20条第2項に基づき,平成24年5月8日付けで出荷制限が指示されていた金華山以南の海域におけるヒガンフグについて,出荷制限が解除されたのでお知らせします。

1月の塩竈市魚市場の水揚げ状況

- ・地方卸売市場塩竈市魚市場の平成26年1月の水揚げ量は,数量1,413トン,金額665,492千円でした。前年同期比較で数量は726トン,金額では306,508千円の増加となりました。

増加の背景としては,インド洋海域で漁獲されたキンメダイ等の搬入魚(数量約920トン金額約350,000千円)の上場によるものです。

鮪延縄船の水揚げについては,前年同月比で数量金額とも減少しており,今後の水揚げに期待するところです。

塩竈市魚市場水揚げ状況(平成26年1月) (トン,千円)

区 分	平成26年		平成25年		対 比	
	数 量	金 額	数 量	金 額	数 量	金 額
1月の水揚げ	1,413	665,492	687	358,984	206%	185%

松島湾で干潟の造成工事を行っています

- ・県では,国の水産環境整備事業を活用し,本年度から平成27年度にかけて松島湾内の干潟造成を計

画し、現在、松島町の名籠地先で6,700 m³の干潟造成工事を実施しています。

この事業は、東日本大震災の地盤沈下等で失われた干潟を再生し、浅海域の水質環境の改善を図り、併せて、アサリ等の生物の着生や育成を促進させることで、漁場機能の回復と水産資源の生息場の環境整備を図るものです。

今後、馬放島や桂島石浜地先などで事業に取り組み、松島湾内8地区で合計67,000 m³の干潟造成を行う予定です。



干潟造成工事で使用する盛り土



土留め用捨石堤

サケの放流が始まりました

・2月14日(金)白石川と名取川でサケの稚魚が放流されました。白石川では、白石川漁協の組合員により不忘山中のふ化場で飼育され、体長約5cm、体重0.9gまで成長した稚魚約20万尾が、晴れて放流の日を迎えました。また、同じ日に名取川でも広瀬名取川漁協の組合員により約18万尾が放流されています。今後、他のふ化場でも順次放流が行われ、管内で合計約800万尾の稚魚が放流されることになっています。サケは沿岸漁業を支える重要な魚種です。特に、当部管内で放流されたサケは、北洋で育ったのち4年後に沿岸を南下して母川に帰ってくることから、県内沿岸全域で漁獲対象となります。引き続き、健康な稚魚が計画どおりに放流されることが期待されます。



↑
放流前のサケ稚魚(白石川)

サケ稚魚の計量



白石川での放流の様子

